



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位: 億円)

日付	資金需給予想			主要要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
4/20 (月)	▲ 300	▲ 6,900	▲ 7,200	国庫短期証券発行償還 (3M・1Y) 各種財政資金の支払い	国債補完供給 社債等買入	+2,800 ▲100	
4/21 (火)	トン	+ 5,000	+ 5,000				日: 金融システムリポートの公表 米: 小売売上高 (3月) 上院銀行委員会がウォーシュ時期FRB議長の 指名公聴会開催
4/22 (水)	トン	▲ 2,500	▲ 2,500	流動性供給			日: 貿易収支 (3月) 欧: ラガルドECB総裁の講演 ユーロ圏消費者信頼感指数 (4月)
4/23 (木)	▲ 1,000	+ 3,000	+ 2,000				日: 片山財務相・金融担当相インタビュー (Bloomberg New Voicesイベント) 製造業・サービス業・総合PMI (4月) 米: 製造業・サービス業・総合PMI (4月) 欧: ユーロ圏製造業・サービス業・総合PMI (4月)
4/24 (金)	トン	+ 21,000	+ 21,000	各種財政資金の支払い			日: 全国CPI (3月)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、前営業日対比4,600億円減少の455兆6,800億円から始まった。その後、年金定時払い、源泉税揚げや国債買入オペ等の要因で増減し、17日は465兆7,600億円 (速報) で越週した。

無担保コールON物加重平均金利は週初、0.726%から始まり、その後も概ね横ばいで推移した。

ターム物は1W~3W物0.720%~0.900%のレンジ、1M~3M物0.910%~1.100%のレンジで出合が見られた。

来週の予定は、国内では21日に日銀より金融システムリポートの公表、23日にBloomberg New Voicesイベントで片山財務相・金融担当相へのインタビュー、海外では21日に米国上院銀行委員会によるウォーシュ時期FRB議長の指名公聴会開催、23日にラガルドECB総裁の講演などがある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	0.700 ~ 0.729
1M	0.90 ~ 0.95
2M	0.95 ~ 1.10
3M	1.00 ~ 1.15
6M	1.20 ~ 1.40

<レポ>

足許GCは週を通して0.75%~0.755%の狭いレンジでの出合いとなった。買入れオペや短国の発行等の影響もほとんど見られず、水準に変化はなかった。

SC取引は2年470~482回債、5年155~183回債、10年356~372、378~381回債、20年110~130回債、30年86~89回債などに引合いが見られた。

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	0.70台
CP 3M	1.0 ~ 1.2

<CP>

今週の入札発行総額は約2兆1,030億円で、週間償還額の1兆2,715億円を大幅に上回った。発行残高は、先週末時点の22兆2,200億円から、4月16日時点で22兆9,176億円へと増加した。発行市場では、電気機器・不動産業・小売業をはじめとする幅広い業種で、期明けの調達再開に伴う大型の発行案件が見られた。入札案件の発行レートは、a-1格相当の1か月物で0.80%台から0.9%台、3ヶ月物で1.0%程度から1.1%台と、幅広い水準での取引が確認された。

来週の償還額は、約1兆2,000億円となっている。発行市場は、償還額と同程度の発行が見込まれる。発行レートは、利上げ観測の変化を背景に、引き続き水準を探る展開が続くだろう。

<TDB>

16日の1Y (第1375回債) の入札は、最高落札利回り1.1101% (前回債1.0642%)、平均落札利回り1.1071% (前回債1.0550%) となった。

17日の3M (第1376回債) の入札は、最高落札利回り0.8249% (前回債0.8823%)、平均落札利回り0.8189% (前回債0.8710%) となった。

来週の入札は24日に3Mが予定されている。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。